

令和4年度 事業報告書

- ◇ はじめに . . . P 1
- ◇ 子供の家 . . . P 2～5
- ◇ 愛童園 . . . P 6～9
- ◇ ちぐさ . . . P 10～13
- ◇ あい . . . P 14～15
- ◇ 丸の内保育園 . . . P 16～19
- ◇ 三里保育園 . . . P 20～23

社会福祉法人 高知県福祉事業財団

－ はじめに －

令和4年度は、児童を取り巻く環境の大きな転換点となった年であった。「児童福祉法の一部を改正する法律」のほか「こども家庭庁設置法」や「こども基本法」が相次いで成立し、今後これらの法律のもとで、子どもを中心に据えた社会の実現に向け様々な施策が推進されることとなった。当法人においても、これらの制度見直しや新たに展開される施策等を注視し、改めて事業内容の精査を行っていくことが求められている。

長期化した新型コロナウイルス感染症については、各施設で感染者の発生が後を絶たず、令和4年度も引き続き多くの事業の中止や見直しを余儀なくされたものの、一方で、過去2年間の経験等に基づき、工夫を重ねながら可能な限り事業を展開することができた。

各施設の令和4年度の主な取り組みとして、子供の家では、家庭支援専門相談員を増員し親子関係の再構築等にかかる体制を強化したほか、高知県社会的養護自立支援事業を活用し園外で生活する対象者への支援の強化を図った。愛童園では、令和3年度に分園型に続き、4月から本館での小規模グループケアの運用を開始するとともに、新たに加力学習の時間を設定し在園児童の学習の定着を図った。ちぐさでは、入所者支援充実のための指針となる「中・長期ビジョン」及び将来の施設整備を念頭に置いた「経営計画」を策定し、中長期的な課題の抽出や解決策の検討を行った。

また、丸の内保育園では、保護者への緊急連絡を円滑にするためLINE公式アカウントを開設するとともに年々増加する延長保育に対応するため夕方の時間帯に保育補助者を雇用した。三里保育園では、不審者侵入に対する職員及び園児の対応するため対応方法を学ぶため、12月に高知東警察署と合同で不審者対応訓練を行ったほか、3月には保護者を不審者役に仕立てた不審者対応実技訓練を実施した。

政府は令和4年2月から新たに月額9千円の給与改善を実施したが、児童福祉分野の雇用環境は厳しく、人材の確保は引き続き大きな課題となっている。人材育成については、コロナ禍で集合研修の中止が多い中、関係機関主催のオンライン研修などに積極的に参加させ、職員の意識啓発、専門性の向上やステップアップのための支援に継続して取り組んだ。なお、新たな人材として、職員採用試験を冬に実施し、子供の家3名、愛童園に2名の正職員を採用した。

以下、高知県福祉事業財団5施設は、児童憲章や児童福祉法等の理念をふまえ、令和4年度に掲げた事業計画に次のとおり取り組んだ。

昭和24年の開園以来70年余りが経過した。この間の子どもを取り巻く環境は大きく変化をし、それにともない入所理由も変わってきた。開園後に子供の家から社会に巣立っていった児童、あるいは家庭等に復帰した児童は合計1,038名に及んでいる。

平成28年に児童福祉法が大幅に改正され、権利の主体者をより明確に児童と位置付けるとともに、さらに家庭支援が強化されることとなった。

子供の家では児童福祉法や子どもの権利条約の理念のもと、平成28年12月に策定した子供の家の運営理念、運営目標に基づき児童の最善の利益のために、養育及び自立支援に取り組んできた。

◎令和4年度事業計画に掲げた重点目標に対する主な取り組み

(1) 児童の権利擁護

- ① 外部講師を招き権利擁護に関する研修を行うことで、養育の質の向上に努めた。
また、専門職が参加した支援会等を積極的に行い、児童の権利擁護について確認し、自立に向け協議を重ねた。
- ② 意見箱の設置や、学期ごとにブロック単位で職員と児童が話合う機会を設けることで、児童の声を反映させる環境整備に努めた。

(2) 児童の養育・支援

- ① 心理療法担当職員・家庭支援専門相談員・個別対応職員・自立支援担当職員等の専門職を配置し、それぞれが連携し各児童に応じた専門的な支援を行った。
- ② 看護師・栄養士を中心に、新型コロナウイルス感染対策を徹底して行い、児童が安心して生活を送ることができるよう感染防止に努めたが、職員17名、児童17名が感染することとなった。

◆医療的ケア

- 医療的ケア対象児童数 20名
- 全児童延べ受診者数 813名
- 主な医療機関 医療センター・高知大学医学部附属病院・愛宕病院
療育センター・近森病院等

◆心理療法

- 心理療法対象児童数 17名
- 年間延べ実施日数 248日
- 1日当たり平均実施時間 1時間

◆被虐待児個別対応職員の活動状況

- 個別対応対象児童数 6名
- 個別対応年間実施日数 100日
- 1日当たり平均実施時間 30分

◆ 中学・高校等を卒業した者の進路状況（令和4年度）

進学先		就職先	
高 校			
伊野商業高校	1名	県内製造業	2名
岡豊高校	1名		
日高特別支援学校高知しんほんまち分校	1名		
専門学校			
高知福祉専門学校	1名	県外福祉施設	1名
早稲田美容専門学校	1名		

（3）家庭支援と自立支援の強化

- ① 社会福祉士の資格を持つ職員等3名を家庭支援専門相談員として配置し、体制の充実を図るとともに、関係機関と連携し家庭支援に取り組んだ。
- ② 高知県社会的擁護自立支援事業を積極的に活用し、園外で生活する対象者に対して支援を行いながら、それぞれの課題解決を図った。
- ③ 自立支援担当職員・家庭支援専門相談員が連携しながら施設退所者の状況を把握し、アフターケアの充実に努めた。

（4）事故防止と危機管理

- ① 防災マニュアルを随時見直すとともに、年間避難訓練計画に基づき火災、地震、津波を想定し、様々な形で避難訓練や消火訓練を実施した。
- ② 定期的に備蓄食料等の点検を行い、地域の避難所としての役割を果たすため、日頃より積極的に地域活動に参加し、地域との関係を深めた。
- ③ 防災対策マニュアルをもとに、南海トラフ大地震が起きた際の対応について研修を行い、地震時の各職員の役割について確認を行った。

（5）家庭的養育の推進

- ① より家庭的な養育を目指し、小規模グループケアを6ブロックとするとともに、各ブロックに専任職員を3名配置し、地域分散化・高機能化、多機能化を見据え職員のスキルアップに取り組んだ。

（6）関係機関連携と地域支援

- ① 地域の地縁組織や関係機関との連携のもと、地域の子育て支援のニーズや情報の収集に努めた。
- ② 9自治体と業務委託の契約を締結し、ショートステイの受け入れを行った。

（7）職員の資質と施設運営の向上

- ① 階層別研修や専門職研修へ積極的に職員が参加し、スキル、キャリアアップを図った。
- ② 職員会、ケース検討会等の各種会議を適宜行い情報の共有化を図り、施設運営の向上に努めた。

◆各種研修会等への参加状況

- 全養協関係 1回 / 2名 ○中四国養協関係 1回 / 2名
- 県養協関係 3回 / 12名 ○全社協関係 2回 / 3名
- 各種専門研修5回 / 9名 ○子どもの虹関係 3回 / 3名
- その他 3回 / 4名
- 園内研修 (事例検討会・防災・権利擁護・感染症・AED・新任職員研修などを実施)

◆実習生の受け入れについて

- 社会福祉士相談援助実習 3名
(美作大学・高知県立大学)
- 保育実習 13名
(高知大学・高知龍馬看護ふくし専門学校・神戸こども元町専門学校・高知福祉専門学校)

◆年度別児童・職員数

各年度3月31日現在

年 度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
定員 (暫定)	70名 (52名)	70名 (51名)	70名 (53名)	70名 (52名)	70名 (52名)
在籍児童数	47名	47名	44名	41名	44名
職員数 (臨時・パート含む)	38名	39名	38名	38名	39名

◆令和4年度 月別児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総数	44	44	44	44	44	44	43	44	45	45	45	44
入所	3	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	4
退所	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	5

◆学年別児童数

令和5年3月31日現在

	就学前		小学校						中学校			高校			そ の 他	計
	3歳 未 満	3歳 以上	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	1 年	2 年	3 年	1 年	2 年	3 年		
男	0	6	3	4	2	0	0	0	1	3	2	3	2	1	2	29
女	0	2	1	0	0	2	1	1	3	1	2	1	1	0	0	15
計	0	8	4	4	2	2	1	1	4	4	4	4	3	1	2	44

*令和4年度末自立支援事業対象者4名

◆入所主訴理由別児童数

令和5年3月31日現在

入所理由	人数	構成比
養育困難	25人	56%
身体的虐待	3人	7%
心理的虐待	2人	5%
性的虐待	0人	0%
ネグレクト	14人	32%
合計	44人	100%

◆一時保護委託の状況（受託先：児童相談所）

項目	利用実人員	延べ利用人員	延べ利用日数
令和4年度	3名	3名	101日
令和3年度	2名	2名	205日
令和2年度	5名	5名	467日

◆子育て支援短期利用事業（契約先：高知市・南国市・安芸市・土佐市・室戸市・いの町
佐川町・田野町・日高村）

項目	利用実人員	延べ利用人員	延べ利用日数
令和4年度	5名	5名	32日
令和3年度	2名	3名	5日
令和2年度	5名	6名	30日

◆令和4年度 主要な年間行事

- 4月 小・中学校家庭訪問
 - 5月 子どもの日バイキング（各ブロックで対応）
 - 6月 輪抜け祭
 - 7月 浦戸湾のんびりクルーズ招待
 - 8月 ぶどう狩り（コロナウイルス感染症の影響により寄贈に変更）
 - 9月 内科検診
 - 10月 インフルエンザ予防接種（1回目）
 - 11月 インフルエンザ予防接種（2回目）、中央ライオンズみかん狩り招待
 - 12月 市長サンタ来園（中止）、クリスマスバイキング（各ブロックで対応）
 - 4/1月 正月・新年夕食会（各ブロックで対応）、日赤赤野奉仕団来園
 - 3月 退園祝い外食
 - 通年 「散髪奉仕団・風」による散髪奉仕（毎月第4月曜日）
高知FD試合招待、子ども劇場招待、その他の招待行事
- ※宿泊キャンプや川遊び等、コロナウイルス感染症のため中止とした行事多数

開園以来 60 年余りが経過する中、子どもと子育てを取り巻く環境はもちろん、児童養護施設の置かれた状況も大きく変化してきた。この間に愛童園から社会に巣立った、あるいは家庭等に復帰した児童は 334 名を数える。

近年の施設入所児童は、親からの虐待体験や離婚、貧困などを背景として、個々の児童の特性に配慮した支援が必要となっており、職員には高い専門性とケアワークが必要となっている。加えて、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症への感染予防を踏まえた施設運営が求められた。

このような状況のなか、愛童園では、昨年度の分園型に続き本館でも小規模ユニットによる養育をスタートさせ、家庭的な養育環境のもとで、子どもたちの心身の健やかな成長と社会的な自立を目指し、関係機関や地域社会と連携を図りながら次のとおり取り組みを進めた。

◎令和 4 度事業計画に掲げた重点目標に対する主な取り組み

(1) 児童の権利擁護

- ① コロナ禍で、各種行事の中止が相次ぐなか、園内研修や Web 研修などを通して、養育者としての倫理観や責任感を持って児童に対応できるよう資質の向上を図り養育にあたった。
- ② 日々の養育のなかで「こどもの最善の利益」を常に意識して養育にあたるとともに、児童の意見を聞いた上でのルール作りや自立支援計画の作成、意見箱の設置等により、児童の意見を表明できる環境整備に努めた。

(2) 児童の養育・支援

- ① ユニット単位での養育を進めるにあたり、既存のマニュアルの見直しを行い、児童が安心して生活できる家庭的な養育環境の提供に努めた。
- ② 在園児童の半数以上が心理療法を必要としており、発達障害や知的障害のある児童に対し、自立支援計画の中に児童の心理的支援目標を設定し、処遇職員会等での協議や情報共有などを通して施設全体で計画的な支援に取り組んだ。
- ③ 日常的な生活援助と併せて、学習の定着を図るため宿題等の支援を行うとともに加力学習の時間も設定し学力の定着を図った。また、児童が自ら選択できるよう必要な情報の提供や助言を行うとともに、児童の希望したところに進学できるよう関係機関と連携し支援を行った。

◆被虐待児個別対応相談員の活動状況

○個別対応児童数	11名
○個別対応年間実施日数	50日
○1日当たり平均実施時間	30分

◆心理療法

- 心理療法対象児童数 12名
- 年間延べ対応日数 220日
- 一人当たり平均実施時間 45分

◆令和5年3月に中学校、高校を卒業した児童の進路状況

児童	区分	性別	進学	就職	その他	進路等の状況
1	中学	男	○			県立高校普通科
2	中学	男	○			県立特別支援学校
3	高校	男	○			大阪府専門学校

(3) 家庭支援と自立支援の強化

- ① 家庭支援専門相談員を窓口として児童と家庭との関係調整を図った。また、児童と家庭の関係づくりのために、面会、外出、一時帰宅などを児童相談所と調整し、コロナ禍のなか可能な範囲で実施した。
- ② 自立支援担当職員を配置した支援活動は年間を通して実施できなかったが、児童の自立に向けた情報の提供や援助、自立生活が安定していない卒園生への助言、見守り支援を継続して実施した。

(4) 事故防止と安全対策

- ① マニュアルに基づき、事故や感染症の予防を図った。特に、新型コロナウイルスへの対応は、体調管理、手洗い、咳エチケット等の感染防止対策に徹底して取組んだが、一部児童や職員が感染する状況となった。
- ② 防災対策マニュアルに基づき消火訓練、避難訓練を定期的実施した。
- ③ 毎職員会において、危険な箇所等の確認を行うとともに、交通安全についても意識の徹底を図った。

(5) 社会的養育の推進

- ① 令和3年8月からの分園型小規模グループケアの運用開始に続き、4月から本館での小規模グループケア(1ユニット)の運用を開始した。
- ② 家庭との連絡がほとんどない児童に対して里親委託やフレンドシップファミリーの活用を行った。また、里親関係の各種会合、研修会に参加するとともに、関係機関と連携のもと里親実習生を受け入れ、里親育成にも努めた。

(6) 関係機関連携と地域支援

- ① 要保護児童対策地域協議会や香南市地域貢献連絡協議会、香南市人権教育研究協議会、香南市補導センター運営委員会などへの参加を通じて、地域課題の把握や解消に協働して取り組んだ。
- ② 学校と定期的な支援会の実施や児童相談所との連携のもと、児童の支援状況や家庭も含めての情報の共有に努めた。また、子育て短期支援事業(ショートステイ)の受け入れを行った。

(7) 職員の資質と施設運営の向上

- ① 新型コロナウイルス感染症防止のため、Web 研修など職務に影響のない範囲で研修の機会を確保し職員のスキルアップを図るとともに、園内研修も適宜企画し職員の資質向上に努めた。
- ② 情報共有システムを活用し、日々の予定や児童の記録を職員が共有し、職員会やケース会などで確認することで児童の処遇に反映させるとともに、事務の効率化も図った。

◆各種研修会等への参加状況

- 全養協関係 4回／ 5名 ○中四国養協関係 2回／ 3名
- 県養協関係 3回／ 6名 ○各種専門研修 5回／ 7名
- 児相出前講座 2回／ 46名

また、全員参加の園内研修（感染症対策、救命、風水害、防犯、地域福祉法人理解）のほか、毎月、避難・消火訓練を実施した。

◆年度別児童・職員数

各年度3月31日現在

年 度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
定員（暫定）	30名 (29名)	30名 (28名)	25名	25名	25名
在籍児童数	20名	21名	20名	25名	22名
職員数	19名	20名	22名	23名	25名

※職員数：臨時・パートを含む

◆令和4年度 月別児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総数	25	24	23	22	22	22	22	23	23	23	23	23
入所	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
退所	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2

※1日付入所者は当月、1日付退所者は前月の人数に含めている

◆学年別児童数

令和5年3月31日現在

	就学前		小学校						中学校			高校			そ の 他	計
	3歳未満	3歳以上	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	1年	2年	3年		
男	0	0	0	3	0	0	0	1	0	0	2	2	1	0	0	9
女	0	3	1	1	2	1	2	2	0	0	0	0	1	0	0	13
計	0	3	1	4	2	1	2	3	0	0	2	2	2	0	0	22

◆入所主訴理由別児童数

令和5年3月31日現在

入所理由	件数	構成比	入所理由	件数	構成比
父母の行方不明	1	4.5%	虐待	4 (3)	18.2%
父母の離婚	0	0.0%	経済的理由	2	9.1%
父母の拘禁	1	4.5%	精神疾患・入院	0	0.0%
父母の傷病・入院	3	13.6%	措置変更	8	36.4%
父母の養育困難	3 (4)	13.6%	その他	0 (1)	0.0%
			合計	22	100.0%

() 内は、措置変更児の当初措置理由

◆一時保護委託の状況 (受託先：児童相談所)

項目	利用実人員	延べ利用人員	延べ利用日数
令和4年度	0名	0名	0日
令和3年度	1名	1名	2日
令和2年度	3名	3名	46日

◆子育て短期支援事業 (受託先：香南市、安芸市、香美市、芸西村、室戸市)

項目	利用実人員	延べ利用人員	延べ利用日数
令和4年度	1名	4名	17日
令和3年度	0名	0名	0日
令和2年度	2名	2名	8日

◆令和4年度主要な行事

- 4月 新年度編成、本館小規模ユニット開始
- 5月 香南市要保護児童対策協議会代表者会、施設実習(高知龍馬学園 中止)
- 6月 苦情解決第三者委員報告会、施設実習(高知福祉専門学校)
- 7月 七夕祭り、児相サポートケア、園内研修(交通安全)
- 8月 キャンプ、消防訓練、園内研修(救命講習)、施設実習(高知学園短大中止)
- 9月 中学校体育祭、児相出前講座1回目(トラウマ)
- 10月 幼稚園・小学校運動会、第三者評価受検、園内研修(感染症対策)、ハロウィン
- 11月 児相出前講座2回目(トラウマ)、児相サポートケア、
- 12月 開園記念日、クリスマス会、餅つき、卒園生旅行
- 05/1月 お正月、消防訓練・水防研修
- 2月 節分豆まき、園内研修(防犯、地域社会福祉法人理解)、児相サポートケア、施設実習(高知福祉専門学校)
- 3月 ひな祭り、卒業式、卒園生食事会

母子生活支援施設 ちぐさ

昭和22年、戦後の混乱期に恩賜財団同胞援護会高知支部の経営により高知県最初の母子寮として、相生町に「千草母子寮」（定員5世帯）を開設した。

その後、経営組織改組により社会福祉法人高知県福祉事業財団を設立し今日に至り、平成9年児童福祉法の改正により「母子生活支援施設ちぐさ」と名称の変更も行った。

平成10年には現在地に移転新築し、母と子が一緒に生活できる唯一の児童福祉施設として、広く県内外から母子を受け入れてきた。

百石町に移転以来令和5年3月末までに204世帯が入所し、182世帯が自立している。これからも母子の権利擁護に努め、自立に向けた支援に努めていく。

令和4年度は、入所者支援充実のための指針となる「中・長期ビジョン」及び将来の施設整備を念頭に置いた「経営計画」を策定し、中長期の視点に立った課題の抽出やその解決策の検討・実行を行った。

◎令和4年度事業計画に掲げた重点目標に対する主な取り組み

(1) 母と子の権利と尊厳の擁護

母と子が一緒に生活できるという特徴を持った唯一の施設として、それぞれの生活課題に向き合い、自立に向けた考えを尊重しながら必要な支援に努めた。

(2) 利用者の意向を踏まえた切れ目のない支援の展開

年度当初に22世帯の支援計画書を作成し、毎月2回の職員会でその課題を共有し、随時見直しながら対応に努めた。また、令和4年度からは有識者にスーパーバイザーを委託し、その助言を受けるなどしてより専門的な支援を展開した。

(3) 関係機関と連携した就労支援の強化

延べ求職者は10名で、福祉事務所と連携した求人情報の提供や事業所見学等の同行支援（4名）を行い、7名が就職に至った。

(4) 養育・保育に関する支援

延べ28名の幼児の預かり保育を実施した（コロナ感染拡大により、保育は極力母親で完結することとしたため預かり保育数は令和2年度以降減少している）。

(5) 母親に対する基本的生活習慣の支援

延べ育児はもとより掃除、食事、入浴に関して未熟な母親が多く、その都度職員が部屋に入り、手伝い・助言を行った。

(6) DV被害世帯のための広域利用や一時保護委託の受け入れ

令和4年度は2世帯の広域利用（市外）があった。また平成19年度から高知県女性相談支援センターと一時保護委託契約を結んでおり、1世帯を13日間受け入れた。

(7) 地域ニーズに応えるためのショートステイ・トワイライトステイの実施

令和4年度は1世帯のショートステイの利用があり、10日間の受け入れを行った。なお、トワイライトステイの利用はなかった。

(8) 防災・減災対策の実施

毎月1回の避難訓練を実施。3月には、消防職員を招いての避難及び消火器の操作訓練を行うとともに、南海トラフ地震対策として、最寄りの緊急避難場所である潮江小学校までの集団避難訓練も実施した。また、南海トラフ地震を想定した事業継続計画（BCP）の策定も完了した。

(9) 職員の資質と施設運営の向上

中・長期ビジョン策定に合わせ、人材育成計画及び研修計画の策定を行った。主任制導入によるOJTの充実やケース会の積極的な開催による職員の知識や意識の向上など人材育成計画に位置付けた項目の推進を図った。なお、研修については、引き続きオンラインによるものが大半となったものの、関係機関の主催する各種研修等に参加し、それぞれのスキルアップに努めた（14回のべ15名）。

(10) 特定妊婦の積極的な受け入れ

令和4年度は特定妊婦の受け入れはなかった。なお、一般社団法人全国妊娠SOSネットワーク主催の「予期しない妊娠への相談対応研修」に母子生活支援施設の立場から参加し、母子生活支援施設が妊産婦を受入れすることの可能性や課題等について発表する機会を得るとともに、専門家との情報交換を行うことができた。

◆年度別入所者数・職員数

各年度3月31日現在

年 度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
定数（暫定）	27世帯 (26)	27世帯 (22)	27世帯 (22)	27世帯 (24)	27世帯 (26)
入所世帯数	17世帯	22世帯	22世帯	22世帯	22世帯
入所人数	43名	55名	55名	53名	55名
職員数	10名	10名	11名	12名	12名

※職員数：契約職員及びパート職員を含む

◆令和4年度 月別世帯数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総数	22	21	21	21	24	24	24	23	23	22	23	23
入所	0	0	0	3	0	0	0	0	0	1	0	0
退所	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1

◆令和5年3月31日現在の入所世帯状況 (定員27世帯 暫定26世帯)

入 所 世 帯 の 状 況	入所者数	22世帯55名 (内児童数33名)				
	市内・県内外別世帯数	高知市内 ⇒ 7	県内市町村 ⇒ 14	県外 ⇒ 1		
	主たる入所理由	D V ⇒ 5	住居の確保 ⇒ 6	養育支援 ⇒ 11		
	在所年数	5年以上 / 6	3~5年 / 7	1~3年 / 5	1年未満 / 4	
	就労者の状況	常雇 2名	パート 13名	無職 7名		
	母親の年齢構成	10代 / 0名	20代 / 7名	30代 / 8名	40代 / 4名	50代 / 3名
	子どもの年齢構成	乳幼児 13名	小学 11名	中学 5名	高校等 4名	大学等 0名

◆令和4年度の入所者の状況

世帯	職業 (入所時)	入 所 理 由	措置元	世帯 構成
1	無職	同居していた親宅が手狭なため市内から転入	市内	3名
2	無職	義親からの母子への暴力等により市外から転入	市外	2名
3	無職	夫や義親からの母子への暴力等により市外から転入	市外	4名
4	無職	雇用機会の多い本市での就労自立をめざし市外から転入	市外	2名

◆令和4年度退所者の状況

世帯	職業	退 所 理 由	在所年数	世帯 構成
1	無職	措置理由 (DV) 消滅により市内に転出	9年7か月	2名
2	無職	妊娠のため措置元の方針により市内に転出	5年3か月	2名
3	無職	県営住宅入居により市内に転出	3年0か月	3名
4	無職	就労・自立により市内に転出	3年3か月	2名

◆各種研修会等への参加状況 (14回 / のべ15名)

- 広島県母子生活支援施設協議会職員研修会 1名
- 第43回全国母子生活支援施設職員研修会 1名
- 社会福祉法人会計セミナー「基本編」 1名
- 中国・四国ブロック母子生活支援施設研修会 2名
- 令和4年度福祉サービス苦情解決セミナー 1名
- ジョン・マクニールセミナー
「禁止令の新しい診断表について」 1名

- 管理職員研修・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1名
- 母子生活支援施設指導者研修・・・・・・・・・・・・・・ 1名
- 高知市子育て応援講演会
「沈黙のヤングケアラー ～その笑顔の内側に～」・・・・・・・・ 1名
- 第65回全国母子生活支援施設研究大会・・・・・・・・・・・・ 1名
- 令和4年度高知市子育て支援研修・・・・・・・・・・・・・・ 1名
- DV対策連携支援ネットワーク会議及び専門者研修会・・・・・・・・ 1名
- ファミリーソーシャルワーク研修会・・・・・・・・・・・・・・ 1名
- 福祉サービス第三者委員ブロック別研修会・・・・・・・・・・・・ 1名

◆主な年間行事

新型コロナウイルス感染症の影響により、入所者及び職員の行動が著しく制限され、多くの行事の縮小・中止を余儀なくされたが、感染防止の徹底を行いながら以下の行事を実施した。

- 4月 母親健康診断（1回目）
- 5月 こどもの日行事（乳幼児向け）
こいのぼり昼食会
- 7月 護衛艦見学
- 8月 親子行事（乳児、幼児向け）
工作を作ろう（実習生参加）
夏休み食事会
夏休みレク活動
- 10月 母親健康診断（2回目）
- 11月 ちぐさ秋祭り
- 12月 クリスマス会
- 2月 節分祭
- 3月 ひな祭り

地域子育て支援拠点事業として、子育て中のお母さんお父さんに、親子で楽しく遊べる場所を提供した。また、利用者同士の交流の仲立ちをし、様々な情報提供や育児相談を受け、育児講座を企画し、地域の子育てを応援した。

毎月発行している子育て通信「あい」を利用者に配布し、行事内容等を周知するとともに、高知市の子ども育成課・保育幼稚園課・南部健康福祉センター・潮江図書館・おもちゃ図書館・ソーレ等にも送付し情報提供を行った。同様にポスターも毎月、毎日屋・マルナカ・ドラッグストア mac に掲示し、また、送付されてきた市や県の情報のほか、子育てサークルの講座やイベント情報を子育て支援のために随時提供した。

県のプレマ net やほっとこうちにも毎月掲載を依頼し広く広報に努めるとともに、独自のホームページでは、講座の内容や毎月の子育て通信を掲載したほか、昨年度から始めている Instagram では、育児講座などの状況を投稿し、参加の呼びかけを行った。

今年度は、感染拡大で交流の場を開所することはなかったが、利用者に安心して利用してもらえるよう保育室やテラス、洗面所の清掃・消毒、おもちゃ等の消毒を行い、換気では、天窓の開放、サーキュレーター・空気洗浄機の利用に努めた。利用者にもマスク装着は当然のこと、検温、手洗い、消毒等に協力していただいた。

「妊婦さんいらっしやい」は昨年度に引き続き年間4回実施し、昨年度より利用人数は増加した。妊婦の来所は難しいが、切れ目のない子育て支援の観点から来年度も引き続き企画していく。登録者は昨年度より増加したものの、育休中の利用者の誕生日前復帰や第2子の入所年齢の前倒しなど、年度途中で就園する事例が増えたことにより、利用延べ人数は減少した。

◆職員数 2名(主任指導員及び指導員)

◆令和4年度実績

●令和4年度の登録児童数	109名	(令和3年度 89名)
① 育児相談	324件	(参考：令和3年度 213件・令和2年年度 203件・令和元年度 361件)
② 育児講座	実施回数 72回	(参加延べ人数 531名 大人 270名 子ども 261名)
③ 遊び場提供	243日	
●令和4年度施設利用状況	延べ人数 2095名	(大人 977名 子ども 1118名)
参考	令和3年度	延べ人数 2586名(大人 1254名 子ども 1332名)
参考	令和2年度	延べ人数 2279名(大人 1128名 子ども 1151名)
参考	令和元年度	延べ人数 4830名(大人 2425名 子ども 2405名)

※午前午後と来た場合毎回カウント

◆令和4年度育児講座内訳

開催月	講座名
4月	お花遊び・よちよちランド みんなで遊ぼう 手づくり(クラフトテープこいのぼり)
5月	お花遊び・よちよちランド・離乳食教室・おもちゃの選び方 妊婦さんいらっしゃい・手づくり(ガラガラ積み木2日間)
6月	お花遊び・よちよちランド・育児相談助産師 子どもの歯のはなし 手づくり(ぴよんぴよんガエル3日間)
7月	お花遊び・よちよちランド 防災の話 手づくり(水遊び用バケツ3日間)
8月	よちよちランド 妊婦さんいらっしゃい 手づくり(キラキラペット3日間)
9月	お花遊び(テラリウム)・よちよちランド 育児相談保健師(中止)・幼児食の話 手づくり(敬老の日ハガキ3日間)
10月	お花遊び・よちよちランド・ ふれあい遊び(みんなで遊ぼう) 手づくり(クルクル花ビーズ3日間)
11月	お花遊び・よちよちランド・離乳食教室・育児相談助産師 妊婦さんいらっしゃい 手づくり(キーホルダー3日間)
12月	お花遊び(リース)・よちよちランド・育児相談歯科衛生士 クリスマス会 手づくり(三つ編みリース3日間)
1月	お花遊び・よちよちランド 陶芸教室 手づくり(折り紙コマ2日間)
2月	お花遊び・よちよちランド 育児相談保健師・妊婦さんいらっしゃい 手づくり(クラフトテープおひな様2日間)
3月	お花遊び・よちよちランド ピアノ演奏(みんなで遊ぼう) 手づくり(パズル3日間)

令和4年度も新型コロナウイルス感染症の流行により、引き続き“3密”を意識した日々を送ることとなりました。園としては9月末を最後に感染者は出ていませんが、年明けから2月中旬まではインフルエンザが流行し、年間を通して感染症拡大防止に重点を置き、他クラスとの合流を極力避けるよう配慮し、その中で行事の内容や保護者の参加の仕方について対応を見直し、保育を進めてきました。

近年、核家族化、少子化の進行、子育て家庭の地域からの孤立、子育て不安の増加等、子どもと子育てをめぐる環境が大きく変化しており、保護者支援がなお一層重要とされています。家庭や地域、専門機関との連携を図りながら、すべての子どもたちの健やかな育ちを支えるとともに、保護者に対する適切な支援を行い、安心して利用してもらえるよう自園の保育を発信し、信頼関係を築いていくことを大切に取り組みました。

◎令和4年度事業計画に掲げた重点目標に対する主な取り組み

(1) 安心して過ごせる家庭的な環境の中で一人ひとりを大切にされた保育を行い、質の高い養護、教育により子どもの育ちを保障

- ① 乳幼児期における情緒の安定や信頼関係の形成、一人ひとりの発達に応じた適切なかかわりに留意し、子どもの姿をありのまま受けとめ、子どもが安心して自分の思いを出せるような養護、子どもの主体性を大切にされた教育の安定的な提供に努めた。
- ② 家庭との連携を大切にし、子ども達の現状をしっかりと把握して、安心して園生活を送れるようなかかわりを持ち、職員間の共通理解のもと適切な支援を行った。
- ③ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、手洗い・うがい・手指消毒をこまめに行い、早出居残り時間からなるべく他クラスの子どもたちが同じ空間にならないように乳児、幼児に分かれ、可能な範囲でクラスごとに過ごせるようにした。園児同士は普段と変わらない他児との交流を行えるよう、保育中の換気に十分配慮し、人が触れる場所の消毒を行い感染予防に努めた。

(2) 乳児保育、特別支援（障がい児）保育等、保護者の多様なニーズに沿った保育サービスの向上と情報の提供

- ① 子ども達の育ちを支え、保護者の子育てを支えるため、0歳児をはじめ、途中入所を多く受け入れた。
- ② 発達の気になる子ども、貧困世帯など社会的な支援の必要性が高い子どもや家庭を含め、子育て家庭や子どもの育ちをめぐる環境の変化をふまえ柔軟に対応した。
- ③ 保護者への緊急連絡の際、公式 LINE を活用し、速やかに一斉に知らせるようにした。

(3) 世代間交流事業、異年齢児交流事業、保育所地域活動事業の実際

- ① コロナ禍のため、地域の高齢者宅への訪問は実施しなかったが、デイサービス2か所に訪問し、園児が作ったプレゼントやメッセージを届け、屋内外に分かれ距離をとって交流し、人を思いやる優しい心を育むことができた。

- ② 地域の小学生と年長児の直接的な交流が今年も実施できていない。就学時健康診断や一日入学(実施した小学校は)で小学校に行く機会があり、中には在校生と関わりを持った子もいた。小学校から、一日の生活の流れを紹介する DVD が送られ、映像を見ながら小学校に向けての期待を持つことはできた。
- ④ 地域の敬老会に年長児が招かれていたが、コロナ禍のため実施されなかった。

(4) 職員間の連携を図り、子育てに関する相談、家庭環境に対する積極的な支援

- ① 保護者との連携を密にし、職員会を通じて園全体で子育て及び家庭支援の強化を図った。園児のケースについて職員間で連携し、共有する機会を持った。
- ② 家庭環境に対する配慮、専門機関との連携等、保育内容の充実を図るとともに、保護者と保健師、保育士による個別面談、相談の機会を設け園全体で取り組んだ。

(5) 保育士の資質向上と保育水準の向上について

- ① コロナ禍のため研修計画が大幅に変更となったが、会場で実施する研修については参加し、その他 zoom 研修、オンデマンド研修等活用し、可能な範囲で参加し、職員の自己研鑽に必要な機会の確保に努め、研修後は職員会等で内容を共有した。
- ② 子ども・子育て支援制度、改定保育所保育指針についての理解等、一人ひとりが課題を明確にすることができた。
- ③ 通園バスは使用していないが他県での事故を受け、欠席者の理由を確認することを徹底した。
- ④ 不適切保育について、そのようなことがないよう資料を使って園内研修を行い、また、幼保支援課の保育の質向上ガイドラインを活用しそれぞれの保育の振り返りを行うようにして、資質向上に努めた。

(6) 保護者の就労支援の為、早出・居残り、延長保育、土曜午後保育の実施

- ① 保護者の就労支援の為、保育の必要な家庭を対象に平日午後 7 時まで、土曜日は午後 5 時 30 分までの保育を実施した。
- ② 中心地であるため早出居残りの利用者が多く、延長保育を利用する児童も年々増加しており、夕方の時間に有資格の保育補助者を雇用し安全にお迎えを待てるよう対応した。

(7) 津波避難計画に基づいた避難訓練や防災活動への積極的な参加

- ① 様々な想定に基づいた訓練を積極的に実施した。
- ② 防災、減災対策の課題を共有しつつ、研修に参加し、マニュアルや対応についての見直しを行った。

(8) 近隣に居住する家庭の少ない園ではあるが、今後の地域の子育て支援の機能を強化すべき取り組みの展開

- ① 地域の子育て家庭とつながることの必要性を考え、コロナ禍ではあるが、感染予防をしてもらったうえで見学を受け入れ、ふれあう機会は持てなかったが、短い時間で様子を見てもらうようにした。今年は外部との接触を控えることから、バザーな

どのPTA活動も行っていないため、地域と一体となった支援には十分結びついていないが、今後も地域の児童民生員さんとも連携し、園児確保や開かれた園づくりを考えていきたい。

令和5年3月31日現在

定員	110名
職員数	32名（正職12名、契約職員11名、パート9名）
	嘱託医 2名 内訳(歯科医1名・内科医1名)
保育時間	平日（7:30～19:00） 土曜（7:30～17:30）
早出、居残り児童	早出児童58名、居残り児童81名、
延長保育利用児童	延べ1328名、月平均利用111名
土曜日の午後保育	登録園児数48名、平均利用人数25名

※ 契約保育士11名中、特別支援担当保育士3名を含む。

※ パート職員9名のうち3名は0歳児担当保育士として時間を分けてあたり、他の職員は、午前の保育補助、延長保育時間対応（4時間～6時間パート）。

◆在籍児童数

令和5年3月31日現在

年齢別	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
児童数	15	16	17	21	24	17	110

◆年度別：月平均在籍児童数

年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
3歳児以上	61名	54名	49名	50名	62名
3歳児未満	45名	51名	48名	48名	45名
計	106名	105名	97名	98名	107名

◆令和4年度 月別児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総数	101	103	105	105	106	106	109	109	111	111	111	110
入所	0	2	2	1	1	1	3	0	2	0	0	0
退所	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	6

◆職員の資質向上(=研修)への取り組み状況

- 乳児研修・・・・・・・・・・・・・2名
- 保健・救命救急・食育・アレルギー関係研修・・・・・・7名
- 保育士研修・・・・・・・・・・・・・21名（高知県保育士会）
- 保育業務に関する研修・・・・・・・・・・32名（zoom、オンライン、DVD研修含む）
（特別支援保育研修、家庭支援研修、安全教育研修、保育の日、防災に関する研修）
- 県主催研修・・・・・・・・・・・・・3名

◆令和4年度主要な年間行事

- 4月 入園式、顔合わせ集会（幼児組）、個別懇談、
高知市交通安全教室（3・4・5歳児）
- 5月 集会、全園児健診、劇団飛行船を観に行く（5歳児）
- 6月 検尿（4・5歳児）、歯科検診、プール開き
- 7月 七夕まつり、夏まつりごっこ、夕涼み会（5歳児）、夏の水遊び
- 8月 プールおさめ、大掃除
- 9月 通報総合避難訓練、敬老の日地域訪問（5歳児）、敬老の日行事（祖父母への手紙を出す）、集会、3歳未満児健診、お弁当の日
- 10月 運動会、木曜市の買い物学習（5歳児）、お芋ほり（4・5歳児）
お芋ほりごっこ（0・1・2・3歳児）、焼き芋パーティー
- 11月 全園児健診①②、筆山山登り（3・4・5歳児）、家族の日プレゼント渡し
就学前健康診断（5歳児）
- 12月 生活発表会、クリスマス会
- R5/1月 初詣、凧あげ、おもちつき、お正月あそび、歯科検診
オーテピアみらい科学館へ行く（5歳児）、小学校一日入学（5歳児）
- 2月 節分豆まき、3歳未満児健診、お店やごっこ、お弁当の日
- 3月 通報総合避難訓練（火災）、お別れ遠足（高知城～城西公園）職員と行く、
お弁当の日、新入園児保護者説明会、おわかれパーティー、卒園式

※新型コロナウイルス感染症のためクラス閉鎖期間あり

- その他 ◆ 毎月 誕生会、避難訓練、身体測定（0歳児）を行っています。
- ◆ 隔月 身体測定（1～5歳児）
 - ◆ 個別相談、育児相談は必要に応じて行っています。

開園以来73年を経過し、本園は地域園芸農家及び勤労者家庭の児童の福祉増進に寄与してきたところですが、近年、核家族化の進展、急速な少子化の進行、家庭・地域を取り巻く環境の変化に対応し、子どもや保護者に必要な支援が求められています。一人ひとりの子どもが健やかに成長するよう、保護者に対する支援と地域の子育て家庭に対する支援を職員の専門性を活かしながら取り組んできました。

◎令和4年度事業計画に掲げた重点目標に対する主な取り組み

- (1) 一人ひとりを大切にした保育を行い、質の高い養護、教育により子どもの育ちを保障
 - ① 子どもの心を受け止め相互的なやり取りを重ねながら、見通しをもった育ちの援助を行った。
 - ② 家庭と連携を密にし、子どもが安心して過ごせる場となるよう援助や関わりを行った。
 - ③ 年間計画を立て一人一人の成長に合った見通しがもてる保育に努め、子どもが健やかに成長し、豊かな活動に取り組めるよう援助を行った。

- (2) 早出・居残り、乳児保育、特別支援保育、家庭支援等、保護者の多様なニーズに沿った保育サービスの向上と情報の提供
 - ① 保護者の就労時間に応じた長時間保育を行った。
 - ② 乳幼保育では積極的に取り組み、途中入所も受け入れ園児の増加に努めた。
 - ③ 特別支援保育では研修に参加し、専門知識を身につけ保護者とともに子どもの育ちや支援に努めた。
 - ④ 家庭支援では、衣服や寝具の洗濯をしたり、常に声をかける、手紙を書く等、保護者が相談しやすい環境を作る努力を行った。又、登園が難しかったり、迎えに来なかったりの家庭には、頻繁に電話をかけたり家庭訪問をしたりして安否確認を行った。時には専門機関と密に連絡をとり支援に繋げていった。

- (3) 世代間交流事業、異年齢児交流事業、園庭開放等保育所地域活動事業の実施
 - ① 園庭開放は、年間3名の来園者があり入園にも結びついた。
 - ② 異年齢児交流では、卒園児童との交流は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より中止としたが、日常の保育の中では豊かな生活体験を始め保育内容の充実を図る為、一人ひとり十分な間隔、距離を保ちながら異年齢児と関われる様環境設定を行った。
 - ③ 毎年、老人宅訪問をする中で人をいたわり、思いやりの気持ちを育むことを目的として世代間交流事業を行っていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より中止とした。その代わりに自身の祖父母に日頃の感謝の気持ちを込めて、手作りのプレゼントを渡した。これまで参加していた地域のイベントは殆どが中止となった。

- (4) 職員間の連携を図り、子育てに関する相談、家庭環境に対する積極的な支援
- ① 職員会や園内研修などで、園児の特性等の情報を職員間で共有し、個々の対応に連携して取り組んだ。
 - ② 家庭環境に対する支援については、職員間の連携を図り又、子ども家庭支援センター・児童相談所とも協働・連携した取り組みを行った。
- (5) 保育士の資質向上と保育水準の向上
- ① 保育実践や研修などを通じて保育の専門性を高め、職員同士の共通認識をもった取り組みをした。キャリアアップ研修にも参加し質の向上に努めた。
- (6) 保護者の就労支援の為、延長保育の実施
- ① 保育が必要な家庭を対象に、平日午後7時00分までの延長保育に努めた。また、就労だけでなく家庭状況に応じて対応した。
- (7) 園児の体力づくりのための体操指導、英語講師による異文化への関わりの実施
- ① 体を動かす楽しさ、大切さを知り柔軟な体づくりに取り組んだ。
 - ② オーストラリア出身の講師と一緒に、英語を交えたゲームや遊びの実施に取り組んだ。
- (8) 避難訓練や防災活動の実施、及び関係機関との連携
- ① 自園の訓練計画に基づき、火災や地震津波避難訓練を定期的実施しているが、今年度は、地域の中学校との合同避難訓練を3年ぶりに行う事が出来た。また、高知東警察署・三里交番の方とも合同訓練を行った。それぞれの機関より評価をいただき、その結果を次の訓練に活かすようにしていった。
 - ② 防災備蓄物品については、避難場所である三里中学校に協力をいただき、毎年、点検や補充を行っている。令和4年度で、水、食料品の2日分（園児及び職員人数分）とオムツ、マスク、簡易トイレなどが備蓄できている。
 - ③ 不審者対策として、各学期毎に様々な想定をふまえた不審者訓練を実施した。12月には、子どもの安全に関する知識・技術の向上を図る為、又、不審者侵入に対する職員及び、園児への対応方法を学ぶ為に東警察署と合同で不審者対応訓練を行った。さらに、3月には保護者に不審者役をしてもらい不審者対応実技訓練を行った。
 - ④ 「自然災害に備える」と題し、東警察署の方からロープワークを教わった。ほどけないロープの結び方、簡易担架の作り方に運び方等、身近にある物で作る方を教わり、実践した。
- (9) 健康の取り組み
- ① 4、5歳児を対象として、週5回、フッ化物洗口液でうがいを行った。
 - ② 園児が「痙攣を起こしたらどうするか」をシミュレーションし園内研修で振り返りを行うことにより対応について理解を深めた。園の看護師指導のもと、乳

幼児の心肺蘇生人形とAEDトレーナーを使用し、園内研修で実技研修を行った。

- ③ 3～5歳児を対象に歯ブラシ指導を行った。

感染予防対策として、各クラスの園児を対象に、園の看護師による健康教育「てあらい」「ウィルスのはなし」又、動画による「素敵な大人になるために」の指導を行った。

- ④ 熱中症対策として、毎日熱中症指数を掲示し職員への注意を促した。

(10) 食育の取り組み

- ① 毎月19日の「食育の日」を職員に意識させ、食に関する絵本を読み聞かせる等園児に興味を持たせる様にした。

- ② 幼児組を対象に、クッキング保育や年3回の食育集会、年長児に向けて「だし」の味比べをして和食の大切さを知らせた。

- ③ 保護者に向けて食育だより・給食だよりの配布、行事食についての提示、子ども好みの給食やおやつレシピの配布等を行い、関心を持たせた。

(11) ICT業務効率化事業導入

- ① 登降園時にはタブレットと視認と二重にチェックをする事で子どもの人数把握を確実にする事が出来た。

- ② 園のホームページを活用し、写真販売や保育計画の立案等、情報配信を行った。

◆ 組織の状況

令和5年3月31日現在

定員	80名
職員数	18名（正職8名、臨職5名、パート5名）
保育時間	平日（7:30～19:00） 土曜（7:30～17:30）
早出、居残り児童	早出児童29名 居残り児童51名

※嘱託医内訳（歯科医1名・内科医1名）

◆ 在籍児童数

令和5年3月31日現在

年齢別	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
児童数	4	9	12	9	13	14	61

◆ 年度別：月平均在籍児童数

年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
3歳児以上	46名	46名	39名	40名	36名
3歳児未満	38名	40名	38名	31名	25名
計	84名	86名	77名	71名	61名

◆令和4年度 月別児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総数	63	63	63	63	63	63	63	60	59	61	61	61
入所	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0
退所	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0

◆職員の資質向上(=研修)への取り組み状況

- 乳児研修・・・・・・・・・・ 4名
- 給食関係研修・・・・・・・・ 6名
- 保育士研修・・・・・・・・22名(高知県/高知市/全国保育士会)
- 保育業務に関する研修・・15名(特別支援保育研修会・発達支援、リズム&ダンス研修・人権研修他)
- 防災研修・・・・・・・・・・ 1名
- 保健関係研修・・・・・・・・ 18名

◆令和4年度主要な年間行事

- 4月 入園式・対面の日、内科健診、火災避難訓練、幼児組懇談会
- 5月 家族の日、地震津波避難訓練、乳児組懇談会兼参観日、こいのぼり運動会
ごっこ
- 6月 歯科検診、火災避難訓練、尿検査(4・5歳児)、不審者訓練
- 7月 プール開き、七夕笹飾り
- 8月 火災避難訓練
- 9月 地震津波避難訓練(東警察署・三里交番合同)、みさとまつり
- 10月 運動会、内科健診、火災避難訓練(消防立ち合い・通報訓練)、園外保育
- 11月 地震津波避難訓練、記念写真、年長児お買い物、保育の日、勤労感謝慰問、歯科検診、就学前健康診断、実習生受け入れ
- 12月 もちつき、生活発表会、クリスマス会、地震津波避難訓練、不審者訓練
(東警察署合同)
- 5年/1月 乳児組懇談会、交通安全教室、中学校合同避難訓練(東警察署・三里交番立ち合い)
サッカー教室(年長・年中児)
- 2月 豆まき、幼児組懇談会、火災避難訓練(通報訓練)、小学校一日入学、お店屋さんごっこ
- 3月 卒園式、新入児保護者会、不審者訓練(保護者の協力)、火災避難訓練、自然災害に備えてのロープワーク(東警察署の協力)
- その他 ◆ お誕生会、火災避難訓練、体操・英語教室は毎月行っている。
◆ 食育集会、健康集会を学期に1回行っている。